

萩井勝人次期会長の会見要旨

12月20日

NHK広報局

この世界に初めて足を踏み入れるが、非常に重責であり、指名を受けたことは大変誇りに思っている。NHKについては、ぶれない経営を心がけ、報道は、公正中立、不偏不党を実行していきたい。NHKは放送法に基づいて運営されており、放送法の順守はイロハのイだ。その中でも放送法の第1条は、「不偏不党」など、偏らないことをやれと書いている。今後、放送法の第1条に基づいて、力を結集し、公共のためにお役に立てるNHKの文化をつくり出せればと思っています。NHKの内部のことは分からないので、できるだけ早く勉強して、各論に入っていきたい。

(Q放送と通信の融合についてのビジョンは?) 私は、NHKの中で放送と通信の融合について、どこまで議論しているか承知していない。私の個人の思いとしては、これは良い悪いではなく、やらなければいけない話だと思う。これをやらないとNHKの技術は遅れる。コストの問題があるし、どれだけ見てもらえるかを、トータルの収入とあわせながら考えて、みなさんに歓迎されるものが作れば良い。

(Q放送をそのまま通信にも同時再送信することを視野に入れているのか?) そうだ。必要に応じて放送法を変えてもらわないといけないだろうと思う。

(QNHKは公共放送として、受信料をもとに経営しているが、その点についてどう認識しているか?) 放送法は、テレビの受像機をベースにしているが、とっくに変えておかないといけない。なぜ変わらなかったのか。インターネットとの関係で、どう克服していくかが問題だと思う。

(Q受信料の義務化についてどう思うか?) AからZまである幅広いものの中の1つだ。放送と通信の融合の中で、どういう料金体系が一番なのか、検証しなければならない。

(QNHKの番組は、原発や歴史認識などについて、偏っているという意見が一部であるが?) そういう意見があることは聞いているが、だからといって、報道の仕方を変えることはない。放送法に照らしてどうか、という観点で私は判断したい。

(Q 与野党からいろんな意見が届くと思うが、自律的なNHKを守るためにどうするのか?) 党派によって意見は違うが、私たちが拠り所とするのは、放送法である。

(Q 今後の国際放送の方向性は?) もっと発展させないといけない。世界の人に日本の良さを知ってもらい、日本の政治や経済はこうなっているということも含めて、世界に発信する必要がある。個人の思いだが、日本的な観点からアジアをどう見ているかといった放送も必要ではないか。

(Q 海外経験やIT業界での経験をどういかすか?) 外部から来ている人間の役割は、決断と実行だと思う。海外経験でいうと多少、アメリカを見る目が違うとか、ITの話では放送と通信の融合のところで、役に立つだろうと思っている。

(Q NHK職員に対するメッセージは?) 「みんな一緒になってNHKを良くしましょう」ということだ。

